

発行責任者
外旭川病院ホスピス 嘉藤 茂
〒010-0802
秋田市外旭川字三後田142



TEL 018-868-5511
FAX 018-868-5577
HP [www//jkk-sotohp.or.jp/sotohp/](http://www.jkk-sotohp.or.jp/sotohp/)

＜外旭川病院ホスピスの理念＞

1. 癌患者と家族のQOL（生活の質）の向上を目指して、チームアプローチによる全人的ケアを提供します。
2. 在宅でのホスピス緩和ケアの実践を継続し、量的質的に前進させます。
3. 地域連携を構築し、緩和ケア提供システムにおける中核的役割を果たします。
4. ホスピス緩和ケアの教育と研究に取り組み、秋田県における医療の質の向上に貢献します。

第41回日本死の臨床研究会年次大会を経験して

外旭川病院 事務長代行 佐渡悠記

私が外旭川病院で仕事をするようになって早17年が経過しました。入職当初は社会人1年目ということで病院での仕事を習得することに必死の毎日でした。請求業務を担当していたため患者さんと直接接する機会は多くはありませんでしたが、患者さんのご家族とは窓口でお話しすることはあります。その際、外旭川病院に来院したご家族が1番最初に対応する職員として、少しでも不安を和らげることができるよう心掛けています。

そのような中昨年10月に開催された第41回日本死の臨床研究会全国大会で大会事務局の一員として運営に携わりました。これまでも学会等のお手伝いをした経験はありましたが、2,000人規模の大会に携わることは初めてであったことや当院だけでなく複数の病院の職員と連携して運営するという点に少し不安な部分もありました。しかし、毎月コア委員会を開催し、進捗状況をメンバーで確認しながら準備を進めていくことでその不安は解消していき、徐々に開催当日のイメージが持てるようになりました。そして、大会準備のため初めて参加した年次大会で、ある事例検討会場に足を運びました。様々な職種の医療関係者が集まり、患者さんやそのご家族に対する対応が本当に良かったのかなど、真剣に議論する様子に胸が打たれました。この時、秋田大会を参加者にとって有意義な大会となるようにしたいと決意しました。その後、行程表に沿って、広報活動や講師との調整、抄録の作成など準備を行いました。

大会当日はアトリオンの運営責任者として対応に追われました。時間の経過とともに参加者で混み始め、スタッフの皆さんには受付、会計、発表者や講師の対応、弁当配布、クローク、会場案内などそれぞれの持ち場で笑顔で対応していただきました。大会初日はあいにくの雨でしたので、会場外の誘導をしていただいたホスピスボランティアの皆さんには本当に頭の下がる思いでした。事例検討会場では収容可能数を超える参加者のため空調が追い付かないといった事態もありましたが、これも参加者が多かったという証拠だと思います。多くの参加者に「秋田に来てよかった」「おもてなしの対応がよかった」などの評価をいただき、本当にありがたかったです。大きなトラブルもなく年次大会を盛会に終えることができたのは、スタッフの皆さんに助けていただいたおかげと心から感謝しております。

これからもホスピスのある病院で働く一員として、患者さんやそのご家族のためにより仕事ができればと思います。



満席の第2会場（アトリオン音楽ホール）